

学校法人 コミュニケーションアート OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和5年7月4日実施】

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育 理 念 ・ 目 的 ・ 育 成 人 材 像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校法人コミュニケーションアート OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校は、学校法人滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。 「3つの教育理念」「(実学教育」「人間教育」「国際教育)」を実践し「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。 教育理念に基づき、OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校は、『人に喜びや感動を与えられる「即戦力」となるクリエイティブ・IT業界の人材育成』を目的として学校運営をしている。 現在、クリエイティブ・IT業界を取り巻く社会環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、将来的にも、3年制課程と『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現していく。	「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの教育理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想的教育実現を目指す。医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・IT・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡、NYまで82校を有する。 「実学教育」スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を実践的に教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。特に、業界と共に業界に必要な人材を育成する「産学連携教育」を教育の柱として、即戦力印材の育成を行っている。 「人間教育」開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え・気構え・心構えを養成する。 「国際教育」コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。またコロナ禍において海外実学研修は実施できなかったが、海外からのオンライン授業などを通じ、グローバルに学ぶ機会を設けている。	3	・クリエイティブ、IT業界から即戦力として活躍できる人材の育成として、学生一人ひとりの個性を生かした高い専門分野の教育に加え、日々の挨拶活動をはじめとする人間教育に積極的に力をいれられており、滋慶学園グループの「職業人教育を通して社会に貢献する」が実践され、教育理念並びに目的、育成人材像は明確に定められている。 ・また、業界の取り巻く社会情勢の変化に対しても、技術、知識の高度化や付加価値の高い人材育成の必要性を認識され、教育課程の整備や産学連携教育システムなどの取り組みなど、将来的な構想をもって運営されている。 ・地域の関係者として、地元の行政機関として参加させていただいている立場からは、「地域の信頼」の取り組みにおいて、行政機関との連携や地元町内会等との一層の積極的な交流や連携を期待します。 社会人として必要な「人となり」を在学中に学べることを高く評価しました。 弊社でも、人間教育には力をいれており、卒業生として貴校で学んだ理念を新人にも伝えていきたいと思います。 ご説明をいただき前向きな貴校の取り組みを感じました。 私の個人的見解としては、会議の中でも話をしましたが、創作活動をされる方こそ「コンテンツおよびそこに潜む思想を言語化する能力」「クライアントの意図をくみ取む能力」「こちらの意図を提案するための能力」などが大切になってくると感じています。 これらは、「マニュアル的な」獅童ではなかなか身に着くことは無く、「自分の作品分野とは異なる多種コンテンツとのふれあい」「他者のコンテンツの思想などを自分の言葉で伝える練習」 および「古典作品を通してのコンテンツに対する深い感受性の獲得」 などが必要なかとも感じている次第です。 これらはなかなか「授業だけの習得」は難しいとは思いますが、私はこれまでに貴校の方々(学生の方も含め)と接することで、その情熱やホスピタリティーの高さを感じており、卒業生の益々の活躍を願うあまり、老婆心かもしれませんが、上記のことを書かせていただきました。 理想像がはっきりしており、そこを目指して様々な取り組みが行われており、良いと思いました。
	1-2 学校の特色は何か					
	1-3 学校の将来構想を抱いているか					
2 学 校 運 営	2-4 運営方針は定められているか	3	諸環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては、毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決済を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年数回、勉強会として、事業計画に基づく、学園および学校の方針について、全教職員へ周知徹底するための研修を行っている。 事業計画においては、グループ全体と本校の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。 学校が重要視していることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。 また、滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(ASシステム)により管理・運営している。学生情報や総務管理、財務情報などの管理を行っている。	事業計画書は、学校全体の運営方針を明記している。また、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。さらに単年度の計画にとどまらず、5年後を見据えた、中長期的な運営方針もまとめており、グループの方針に即しつつ、学校としての特徴を生かした計画を立て、実行している。 学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している 滋慶学園全体としてDX化に取り組んでおり、広報システム・教務システム・就職システム、また財務や総務といったデータもシステム化しており、予算執行など組織運用に必要な各部署において、デジタル活用による効率化を図っている。	3	・校舎の改修なども含めた5年毎の中期計画を策定され、計画的な事業運営をされている。コロナ感染拡大に伴う学校運営など、当初に想定されない事象に対しては随時計画の見直しなども適切に行われている。 2つのシステムは段階をもって、目標と成果を実感でき、よいPDCAサイクルだと感じました。また、先生方の研修も多く、実際現場に入らせていただいたことありますが、皆さんの熱量に圧倒された記憶があります。ひとりひとりを大切にしているからこそよい成果につながっていると思います。 ・運営組織や意思決定機関に関しても体系的に整備されている。 ・教員の働き方改革が世間的に注目されていることを踏まえ、教職員のワークライフバランスについても一層のご配慮をいただきたい。 当該項目は私としては門外漢なのですが、ご説明をいただき、方向性や統一感などに感銘を受けました。 また、これまでに貴校の授業やイベントに参加させていただき、企画・広報・運営などの充実度を感じております。 山程あるであろう情報を積極的にDX化していくという取り組みにITに携わる学生を排出する学校である姿勢を感じられとても好印象でした。 全体が系統立てて作られており、分かりやすく、チェックもしやすく感じました。
	2-5 事業計画は定められているか					
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか					
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか					
	2-8 意思決定システムは確立されているか					

3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	本校は、1988年の開校以来、教職員の目標として、 1. 専門就職希望者全員就職 2. 退学率 0%（入学者は全員卒業してもらう） を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。 第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。 入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。 第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システムー「産学連携教育システム」である。 これには、次の6 つが挙げられる。 ①企業プロジェクト ②現役クリエイター・エンジニア講師陣 ③業界研修 ④海外実学研修(コロナ禍においては、海外プログラムなどを実施) ⑤特別ゼミ ⑥ダブルメジャーカリキュラム ⑦キャリアセンター・デビュー事務局 である。 海外実学研修については、コロナの影響により実施できていないが、米国UWF校との提携授業や海外の業界TOPクリエイター・エンジニアより教えを受けるプログラムなどを通じ、国内にいながら、最先端を学ぶ機会を担保している。 カリキュラムは現役プロのクリエイター・エンジニアと担任が構築。社会の変化に伴い、常に見直しを実施し、教育内容の改善に努めている。また、非常勤講師についても時代に合わせた人材を招き、常に現在のゴールに見合う、カリキュラムを準備している。 また本校は教育システムのさらなる開発のため、滋慶COMグループのクリエイティブ系全校から構成する「クリエイティブ教育部会」を運営し、システムの共有化、レベル向上化、評価基準の精査などを図っている。 主な部会内容は、①教育指導法 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④全国企業プロジェクト ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業・進級制作展の運営 等である。 職員の人材については、充足しており、各種の研修などで教育力の向上を図っている。また業界との接点を各職員が密に行い、業界理解を深めている。 本学は、国家資格等が必要な分野ではないは、IT分野などでは資格取得者である講師より授業を通じ、資格対策授業を行い、サポートしている。	3	3年制について、2年目からカリキュラムが詰まっていると聞きましたので見直しは難しいと思いますが、1年目から平均的に出来れば良いのではないかと思います。 現在の若い方は精神面については親世代とは違うので、平均化が出来れば退学者も減少するのではと思います（経済的理由もあると思いますが）。 ・出席率2/3を単位付与の最低ラインと設定するなど、教育レベルの確保については、厳格に実施されている。また、挨拶の徹底など、卒業後の社会活動でのコミュニケーション能力の育成にも積極的に取り組んでいる。 ・中途退学率は、全国水準と比較すると低くなっており、学生に対する様々なフォローが有効に実施されている。しかし、退学率0%を目標に掲げておられるので、引き続き中途退学者の削減には取り組んでもらいたい。日本人の学生と比較して、外国人（留学生等）の退学率が高くなっていることに對する何らかの対応についても検討していただきたい。 ・障がい有する学生へのサポートについても、専任の職員の配置など、丁寧に実施されているとの説明をいただきました。障がいの者の社会参加については、日本全体の取り組みとしてすべての現場での対応が必要であり、障がいの有無に関わりなくすべての人々が平等に学び、就労し、生活ができる世の中の実現に向け、引きつづき積極的な対応を願います。 ・教員に対するスキルアップにも積極的に取り組まれている。 2つのシステムは段階をもって、目標と成果を実感でき、よいPDCAサイクルだと感じました。 また、先生方の研修も多く、実際現場に入らせていただいたこともあります。皆さんの熱量に圧倒された記憶があります。 ひとりひとりを大切にしているからこそよい成果につながっていると思います。 この項目に関しては、次の4の項目とも感想が被るのですが、昨今の創作業務の流れを鑑みますと、「1. クリエイターとして企業に採用される」「2. クリエイターとして個人で他者からの仕事を受ける」「3. 自らがコンテンツ制作＆発信者としての活動をする(いわゆるUGC)」のようなそれぞれの方向があり、ますます2や3が増えていくように感じています。 とくに「3」の場合は、「1」「2」とはかなり異なる能力(セルフプロデュースやセルフプロモーションなど)が必要になってくると思いますが、それらの手法も「新しい技術やサービスの登場」によって日々変化していきます。 これについては「どう教えていくか」が、大変難しく、その方法論もまだ確立されていないと思いますが、今後注力をしていく必要があるのでは、と個人的には感じている次第です。 内容はとてもしっかりと行っている印象を受けますが、実際の学生の状況や結果が気になりました。 学生の質のバラつきがどの程度あって、そのサポートをどこまでおこなっているのか？ 本会議中にもありました通り、海外研修は大変魅力的ですが社会情勢的に海外研修が中々難しいご家庭も多いと思うので国内企業と提携して社会科見学や、実際に現場に行って作業してみるなどの授業があってもいいのかなと思いました。 弊社も協力できることがあれば連絡ください。 コロナへの対応。 また特に、変化の激しい業界において、業界の現在、必要とされる最先端の技術を模索されていると思いました。 実際の現場と、教育の現場で乖離が起きない事が大事だと思います。
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか					
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか					
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか					
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか					
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか					
	3-16-1 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか					
	3-16-2 教員の専門性を向上させる研修を行っているか					
4 教育成果	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。 資格取得については、色彩試験検定やIT系の資格対策授業など、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。	教育成果の1つである就職は、就職希望者における就職達成は全員達成している。さらに年々、専門就職率が向上しているが、100%を達成すべく、努力を続けている。 また、できるだけ多くの学生に夢をかなくて就職するよう、就職対象者率の向上も図っているが、コロナの影響で母国に帰国する留学生も増えている。早期よりキャリア教育を実施し、職業観を指導することが大きな課題である。 学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを実施している。 資格取得については、認定ホワイトハッカーなど難易度の高い資格にも国内学生初として6名の合格者を出すなど、実績を出している。 退学率では、転科・転専攻等の個別カウンセリングの強化し現状以上に体制を整え、1人でも退学者を出さない学校になるべく、努力している。 今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。	3	・2021年度の就職希望者全員の就職達成は、技術や知識の提供(教育)のみならず就職サポートなどの学校全体の取り組みの成果と思います。2022年度は現在90%とのことなので、昨年度に引き続く100%の達成に向けて頑張っていたきたい。 ・他の評価委員の意見にあった中途退学者の退学後の動向や、異業種に就職した卒業生の業界復帰状況などの把握についても検討していただきたい。 ・卒業生の就職先に「税関」の情報があったが、公務職場においてもチラシ作成や情報発信などのスキルの重要性は高まっており、またクリエイティブ産業支援、庁内システムの構築及びメンテナンスなどの活躍の場があります。進路指導において、IT分野やクリエイター関連のみならず、公的な業界など幅広くサポートしていただければと思います。 退学率が3.4%ととても低いことに驚きました。 では、出席率は？というところが気になりますが、個別カウンセリングなど、担任だけでなく非常勤の講師にも相談でき、学生にとって「入学してよかった」と思える環境だと思いました。 やはり「就職率の向上」を考えると、企業とのタイアップがとても重要になるとと思いますが、その「企業」も、昨今の「創作技術の変化」を考えると、いままでとは異なる企業が、貴校卒業生の就職先になる可能性も増えてきていると思います。 顕著なのは、「ネット生放送の運営・技術ができる方」を企業の広報担当者として採用する場合などですが、他にも、「ボカロ楽曲などのプロモーションに詳しい方」を求めるレコード会社なども(私が接してきた企業では) 多々あります。 そういう意味では、固定概念にとらわれない就職先のあっせんなども、今後ますます必要になってくるのかなと感じています。 また、上記「3」に書いたよUGCクリエイターの場合、彼らを初めから「UGC CMプランナー兼パフォーマー」として育て、一般メーカーとのタイアップを推進していくような「学校として、卒業生に ネット広告をあっせんする代理店業務」などが、今後できないのかな、などとも勝手に考えている次第です。 これほどYoubuerが出てきている時代ですから、「OCAでは卒業生Youtuberに、タイアップ企業をあっせんする」などでもいいか？でしょうか(ジャストアイデアですが) 内容はとてもしっかりと行っている印象を受けますが、実際の学生の状況や結果が気になりました。 学生の質のバラつきがどの程度あって、そのサポートをどこまでおこなっているのか？ コロナ禍で大変な時期もあったと思いますが、しっかり考えて運営されているなと感じました。 特に漫画系は、必ずしも希望する形の仕事ができると限らなかつたり。 本人の希望とは違う形で一旦は一般職に就職など、希望と現実の乖離が生まれやすい学科に思いますが、しっかりと就職指導をされていると思いました。 退学率についてははどこの学校もついて回る問題だと思いますが、難しい会生も増えている印象で大変だと思います。
	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか					
	4-20 資格取得率の向上が図られているか					
	4-21 退学率の低減が図られているか					
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか					

5 学 生 支 援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	3	本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。 それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。またキャリア教育・生涯教育の観点から卒業後の支援についても、継続している。 学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。また、保護者会を開催するなど、随時、保護者とも連携し、必要な支援を実行している。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。 ③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(ステューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。 ④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。 また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。 学生寮も学園の専用の寮を整備しており、寮長と担任とが連携して学生を支援している。	3	学生フォローは良いと思います。又、卒業生サポートも有り難い事ですので引き続きよろしくお願いします。 ・学業達成のみならず、健康管理やキャリア形成に関するさまざまなサポートが提供されている。特に学生が無料で受診できる環境の整備のほか、学生寮までも完備され、学生生活に関する支援は大変充実していると思います。 慶生会クリニックや、SSC、寮など同グループ内で、同じ理念をもち運営していることに対して安心を感じました。サクセスナビなどいつでもオンラインで確認できるサービスは学生にとっても非常に効率的だと思います 私の学生時代のことを考えると、「学生時代には社会に対する情報を、本当にわずかししか持っていなかった。あの時に、今のような知識があったら、もっともっと自由な活動ができただろうになあ」と思うことがよくあります。そしてそれは他の方にも当てはまるのではないだろうか。 世の中には、本当に面白い活動をしている方がたくさんいますが、そのような方々の情報はほとんど一般的には出てきません。クリエイターを育てる上で、そうした方々の具体的な活動内容を学生に提供していくことはとても有意義だと感じています。 また、テクノロジーの進歩によって、表現方法やプロモーション方法が変わっていく昨今ですので、これらを駆使し、既存概念に縛られない活動手法を実践していくことも大変重要です。 しかし、私としては「若い人ほど保守的だ」「若い人ほど、自分の周りの狭い世界の常識に流されやすい」と感じています。 そしてこのような「既成概念や視野の狭さを克服してきた方」こそが、私が現在付き合っているような「成功された UGCクリエイター」になれるのではないかと、考えている次第です。 是非、いろいろな世界を学生の方々に知っていただく機会を、今後ますますご提示いただければと、大変恐縮ながら私の意見とさせていただきます。 卒業後の支援含めてしっかりされているので好印象でした。 学習面以外のサポートも、というのはなかなか大変だと思いますが、クリニックを利用できるのは非常に良いと思いました。なかなか他の学校ではない仕組みだと思います。 漫画系の人間としてはやはり、「漫画をやりたいが技術的に難しい」という学生のサポートが手厚いと安心できるな、と思ってお話を聞いていました。 卒業生のサポートもあるのは安心だと思います。
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか				
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか				
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか				
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか				
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか				
	5-29 保護者と適切に連携しているか				
5-30 卒業生への支援体制はあるか					
6 教 育 環 境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。一昨年末より改装を行い、学生が学ぶ環境や生活の環境の向上を図っている。 機材についても、学内に880台にも及ぶPCを用意しており、サポートが経過した機材は買い替える、VRなどの最新機材についても常に導入し、さらに教育環境の充実が図られた。 学内の教育環境に留まらず、学外の環境(インターンシップ・業界研修、学外演習、海外実学研修)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。 防災訓練・避難訓練も計画的に実施しており、安全対策を日ごろから啓蒙している。	2.875	国内研修等も行って頂けたら参加率も上がると思います(選択肢を増やす等)。 教育環境については訪問させて頂いた際に学生もモチベーションが上がると思いましたので素晴らしいと思います。 ・本年1月に大規模な施設改修を行い、大変きれいなキャンパスとなっている。 ・PCなどのハードウェアやソフトウェアも最新のものを導入され、教育環境の充実に尽力されている。 ・アメリカ、イタリアへの海外実学研修も予定されているが、渡航費用の増嵩などの課題があり、海外講師の日本招聘やビデオ通話などの代替措置も検討されている。 ・防犯カメラやさすまの配置など、不審者等の侵入防止に取り組んでいる。 ・近隣の小学校までの避難訓練を予定されているとのことであったので、可能であれば今後、地域の防災訓練などへの参加も検討してもらいたい。 会議時の質問も出ましたが、海外研修以外に国内での研修も選択できるようになればと思います。学生の大多数は国内ではたらくと思います。機材や仕事の考え方、進め方など海外で刺激を受けることも多々あると思いますが、国内での研修も言語が通じる分得るものも多いと思います。(私は海外研修不参加でしたが、国内の実習で学ぶことは多々ありました) 施設など大変充実されていると感じています。 機材など、申し分ない環境で学べる体制が整えられていると思います。 自分が教えていた学校は、お世辞にも綺麗な校舎とは言えなかったので、校舎や設備については非常に立派だと思いました。特にゲーム系のハイスペック機を揃えるのはメンテナンス含めて大変だと思います。オンリーワンという部分で、他の学校と違う人材をどう育てていくか、というのはテーマだなと思いました。
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか				
	6-33 防災に対する体制は整備されているか				

7	学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	3	本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等も)を遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。 さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。 これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。 入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。 なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。 将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりとっているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。 学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。 保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校の特徴を理解してもらう」ことを強化している。 本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。 本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。	3	・年々資料要求や入学希望者も増加しており、来年度は定員(280)の応募も期待できる状況となっている。 ・過大広告を排除し、根拠のある情報の提供に努めている。 ・障がいや有する生徒への配慮も十分行われている。 現在の教育内容のありのままを開示し、過大な広告を排除しているという部分にて学生や高校、地域などからの信頼を得ているのだと感じました ご説明を伺い、いろいろと注力されるポイントがあることを知りました。 「高い専門就職実績と卒業生の活躍」という、事実を元に広報を行っているというところが一番良いと思います。 小字化により大変な部分だと思いますが、頑張ってくださいたいです。
		7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか					
		7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか					
		7-37 学納金は妥当なものとなっているか					
8	財 務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。 その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。 毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。 5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に対応した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。 会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。 平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報を公開している。	予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。 短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものと乖離した場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。 ②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。 さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供している。	3	・年次の決算報告が適切に実施されHP等で公表されている。 ・昨今の物価高騰や光熱水費の上昇に対しては、こまめな消灯などを徹底して無駄なコストの引き下げに努めている。 HPにて公開をおこなっているなど透明性を感じました。 ご説明を伺い、大変勉強になりました。この分野は完全に門外漢ですので、特にコメントは控えさせていただきます。 一番は、外部の監査が入っている、ということが大事だと思います。 入学者数変動する中で予測しにくいところではあると思いますが、健全に運営されている気がします。
		8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか					
		8-40 財務について会計監査が適正に行われているか					
		8-41 財務情報公開の体制整備はできているか					

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかはつぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 等である。	3つ教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業人教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「学生・保護者からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。	3	委員会設置及びハラスメント研修も行っていると聞きましたので安心出来ます。 ・ハラスメント防止に力を入れている。 ・職員の情報リテラシーの向上を図るための研修を実施するほか、個人のSNSなどへの書き込みなどに関しても、チェックを行っている。 ・全職員を対象としたパーソナルアンケートを実施し、コンプライアンスの遵守を図っている。 個人のSNS管理まで行っていると聞き、しっかりと危機管理ができていますと感じました。 在学中にそのような指導を行っていただけていると、安心して採用もおこなえると思います。 ご説明を伺い、大変勉強になりました。この分野は完全に門外漢ですので、特にコメントは控えさせていただきます。 昨今SNSなどが普及し、中々大変かとは思いますが先生方も日頃から意識し、しっかり対応されていると話を聞いていて感じました。 特に学校は個人情報を、多様な種類、多くの人のものを扱うので本当に大変だと思います。 ユーザーの多いアプリを運営していると個人情報には常に気を使いますが、しっかりと運営されていると思います。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A) 組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B) システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COM グループ)	方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。		
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		滋慶学園グループ、COM グループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。 また、自己点検・自己評価の結果についても公開をしている。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査を受けている。		
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか					
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③学生・保護者からの信頼 ④地域からの信頼)というコンセプトがある。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高等学校からの信頼」に繋がっている。 滋慶学園グループが従来より「地球温暖化防止対策」運動を推進している。節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々を実施している。また、行政との連携により、教室の開放による地域や小中高へのサポートや地域貢献、社団法人やNPO法人等の社会性の高い各種団体と連携し、広報周知活動に貢献するなど行っている。	本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。例えば、①大阪府・市からの企業プロジェクト ②大阪市西区の消防署用のポスター、キャラクター制作 ③業界企業とタイアップして行う全国企業プロジェクト ④中学校の職業理解支援等々、年間を通じ、教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。	3	・学生の社会貢献活動を積極的に支援しており、東大阪市青少年健全育成事業、済生会中津病院小児科病棟の壁画作成、奈良県明日香村地域創成プロジェクト、大阪府ゆめ基金事業、西区役所懸垂幕作成など、行政機関と連携した取り組みを進めている。 ・北区、淀川区、西区役所と滋慶学園グループでの包括連携協定を締結した旨を報告いただいたが、西区役所としても、今後、相互の得意な分野などの連携協力を図って行きたいと考えておりますので、よろしく願います。 ・6月下旬に開催された学園祭の模擬店売上金11万円の西区役所への寄付の申し出をいただき、大変感謝しております。 ・産学連携のみならず、官学連携についても力を入れていただくことをお願いします。区役所側からの依頼事項だけではなく、相互に相手の得意分野を活用できるような連携を進めることで、区役所と貴校、貴校と地域が積極的に交流される状況をめざして取り組んで行きたいと考えております。 4つの信頼が先生方、学生などにも浸透し、人間教育にもつながっていると感じました。 卒業制作発表会でのプレゼンからも感じておりましたが「貴校の地域との運動企画」には、大変感銘を受けております。 クリエイターとしての「創作アイデンティティ」の背景には、やはり「日本人としてのアイデンティティや地域アイデンティティ」があるのではと、創作活動の国際化が進むほど感じておりましたので、今後は是非、この分野に注力してください。 ボランティア活動のような直接成果に繋がりにくいものは取り組みが後回しになりがちに感じますが、産学連携と上手く絡めて色々取り組まれていると思いました。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		ボランティア活動についても奨励しており、学生便覧にも規定している。 特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。	その活動が、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「学生・保護者からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく。昨年については、大東市の青年団のサポートや医療法人の小児科へのサポート、動物愛護協会のポスター制作など、数々の貢献を実施。今年については、学園祭の収益を地域に寄付するなども行っている。		